



第46号

梅苑会報



福島県立福島高等学校

新校舎竣工 ～新たな旅立ちへ



四 年前の東日本大震災によって校舎全体の3分の2が被害を受けた本校。特に3棟・4棟の建物が大きく被害を受け使用できなくなった。

代 わって仮設校舎が建てられ、過去の紙面でも紹介したように、一・二年生の教室、理科実験室・講義室として使用され、生徒達が授業を受けてきた。3・4棟の解体工事、そして災害復旧工事が幾多の困難に遭いながらも平成二六年八月二〇日（水）に竣工完成した。内装には全体的に「木」を用いて柔らかな雰囲気包まれ、教室もA版の机が使用できる大きさになり、エアコンも設置された。さらにエレベーターも設置され、利便性が向上した。

新 校舎への引越は九月一日（月）梅苑祭の片付けの日に行われた。

三 年生教室が新校舎の二階へ、同様に二年生教室が三階、一年生教室が四階へ移動となった。

『志乃夫草』しのぶ草、続報

校友会誌（生徒会誌）『志乃夫草』保存のため、第2回役員会と同窓会総会で購入が承認された耐火金庫が、平成26年12月17日図書館準備室に搬入されました。

早速、平成25年8月にいただいた、福島市飯坂町の「なかむらや旅館」の蔵から出てきた阿部久三郎氏（中12回大正3年卒、元大阪大工学部教授）が集めた15冊も含めた2号～現在まで（欠本は、1号・7号）の冊子と第1回卒業式記念写真（明治36年3月）～昭和19年度までの卒業式記念写真をアルバムにしたものを収納しました。

その後12月下旬に第1号が、「東京大学大学院・法学政治学研究科付属・近代日本法政史料センター・明治新聞雑誌文庫」にあるとの情報が、県立図書館旧職員菅野俊之さんから寄せられ、東京大学大学院に依頼してコピーを送っていただきました。

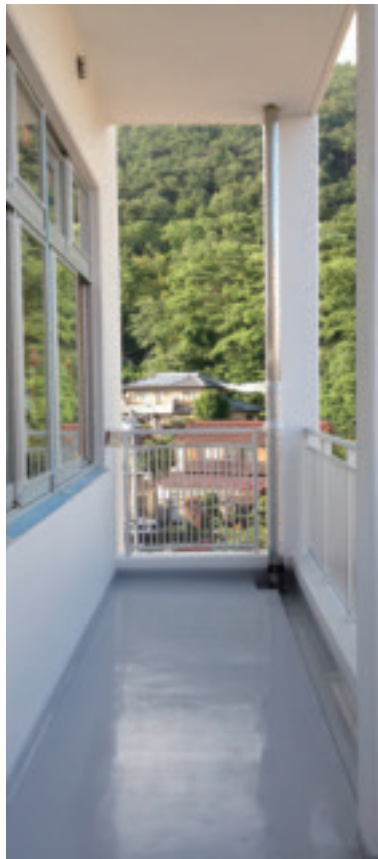
これで今まで発行された『志乃夫草』（しのぶ草）のうち残すは、第7号のみとなり、このことは福島民報にも1月18日付けの社会面に大きく取り上げられ、その後学校に公認会計士の安斎勇雄氏からも11冊の寄贈があり、その輪が広がっています。

今回の寄贈をうけた冊子を少し読んでいただいても、現在歌われている校歌（第二校歌）についての興味深い内容が分かってきました。

以前から本校初の図画教員堀江繁太郎が仙台の旧制二高教授土井晩翠先生に、自分が描いた福中生の学校生活の絵日記を見せ、福島風景、土地柄の話を説明し、作詞を依頼しに行った事は分かっていたのですが、そのきっかけが本校創立25周年記念事業で祝賀会を予定し、それが突然起こった関東大震災で中止となり、集めたお金の内当時の五十円（現在の金額で約10万円）で依頼したと言う事です。（志乃夫草第26号同窓会報）

まだまだ細かいところまで「志乃夫草」を読み込んだわけではありませんが、今後また新たな発見があればこの同窓会報に報告していきます。

※参考文献、「信乃夫草第26号」、「しのぶ草2009年、新井田大校長巻頭言」、「福高百年史、福中・福高の青春群像P227 高木善三郎氏（中35）校歌の由来」



理 科関係の教室は、五階に物理実験室と講義室、一階に化学実験室と講義室、生物実験室と講義室が移動した。地学講義室、美術教室、書道教室、教育相談室等は、1・2棟の耐震補強工事後、2棟に移ることになる。

昨 年二月、太宰府天満宮から恵与された5本の梅の若木も芽吹き季節を迎え、いよいよ花咲こうとしている。新校舎も完成し新たな旅立ちの瞬間を迎えようとしている。



同窓会会長
川崎眞二
(高校第11回卒)

「梅よ咲け」

「梅よ咲け」は永い間、本校で英語を担当していた井上光貞先生（中学44回生）の教え子たちの集まり「梅光会」であいさつした文集の表題です。後年の梅光会のあいさつでは本校校歌5番を引用され、当時の生徒諸君は今や、社会・国家・世界の中で様々な分野で顕著な活動する者あり、一隅を照らす者あり、まことに教える庭の梅さながら咲き誇り、馥郁たる香を放っている。自身を「梅の花」の一輪としてのみずからの半生を誇らしく回顧している、と結ばれた。

昨年2月28日、学問の神様・菅原道真公を祭る太宰府天満宮から恵与を賜った五本の梅の植樹式が行われました。僅かながら小さな花卉を付け、蕾がほころびかけた若木も、厳寒の中、千四百軒の輸送で全て凋んでしまいました。5月7日、太宰府天満宮の研修旅行で被災地福島県を選んだ西高辻信良宮司らが

本校を訪れ、梅の木の生育状況を視察し、蝕まれた若木の適切な対応を指示されました。この折に宮司から福島高校と太宰府の末永いお付合をしていきたいと思います。10月15日太宰府天満宮の造園技能士ら4名を本校に派遣され、若木の剪定等をして戴きました。

同窓会としてはこれを機に、この五本の若木が立派に生長することを願い「梅基金」を設け、太宰府との交流を続けて参りたいと考えております。皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

5月30日、関東梅苑祭・合同同期会、9月11日、みやぎ梅苑会が開催され、関東では中学39回から高校65回、みやぎでは中学43回から高校58回となかでも若い世代が多く出席され、活発な活動を展開されており大変心強い思いでした。11月28日の同

窓会総会も前年以上若い世代に出席を戴き三百名を超える盛会でした。恒例の講演会の講師は、関東梅苑会に続いて、あのNHK朝ドラ「あまちゃん」のテーマ曲の作曲家大友良英氏（高校30回）でした。震災後は音楽を通して復興に力を入れていただいております。総会では文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されている本校は、同省と科学技術振興機構主催のSSH生徒発表会で全国の指定校204校の頂点、文部科学大臣表彰に輝き、同窓会として金一封を贈呈いたしました。

同期生のグループに加え、職域から東邦銀行、福島民報社、部活から野球部OBの参加を得て、縦・横にさらに斜めの糸を織り込み、より強固な組織へと発展してきております。

間もなく卒業式です。この春卒業する三年生が命名した「福

高（ふっこう）の暁」はじめ五本の若木が花を咲かせ、卒業生を力強く送ってくれると信じております。

五本の梅の木よ、卒業生よ、

これから実社会へ飛び立たんとしている若い同窓生よ、それぞれに「梅よ咲け」と心よりエールを贈ります。

福高同窓会総会



平成26年度「福高同窓会総会」が11月28日、午後六時からホテル福島グリーンパレスで開催されました。総会に先立って大友良英氏（高校第30回卒）による、「震災後の活動からあまちゃんの音楽、そして盆踊りまで」と題した記念講演がありました。大友氏は平成25年に放送されたNHK朝の連続テレビ小説「あまちゃん」の音楽を担当し、ドラマとのマッチングが絶妙なその音楽は、全国的な「あまちゃんブーム」を巻き起こしていきました。講演では、「あまちゃん」制作の秘話や震災後のみずからの支援活動、また、高校時代の思い出など思い深く話してくださいました。

総会では、「太宰府梅基金」の創設などが承認され、また、全国SSH生徒研究発表会で文部科学大臣賞を受賞したSSHに対し、今後の研究に役立ててほしいと祝金が贈呈されました。次年度の福高同窓会総会は、平成27年11月27日（金）18時より、福島グリーンパレスで行われます。会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。なお、チケットに関しては、同窓会事務局までお問い合わせください。

平成27年度 一般会計予算書 26年9月1日～27年8月31日

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,467,938	
(2)入会金	957,000	卒業生 (319名×3,000円)
(3)年会費	3,319,000	卒業生 (319×1,000円) 会員 (約1,500名×2,000円)
(4)雑収入	100,000	利息、寄付金等
(5)利息	0	
合 計	6,843,938	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
1.事業費	3,430,000	
(1)総会費	550,000	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,500,000	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	
2.運営費	810,000	
(1)会議費	200,000	役員会、幹事会
(2)事務諸費	10,000	振り込み手数料他
(3)交際費	150,000	関東・みやぎ梅苑会お祝い、職員饗別、その他
(4)慶弔費	100,000	
(5)通信費	50,000	切手、葉書代
(6)旅 費	250,000	関東・みやぎ梅苑会出席者旅費
(7)雑 費	50,000	
3.会員名簿管理費	800,000	平成26年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,803,938	
合 計	6,843,938	

項目間の流用をお認め願います。

平成27年度母校後援会費予算書 26年9月1日～27年8月31日

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	10,371,049	
(2)会費	1,900,000	卒業生(319名×1,000円)、会員(約850名)
(4)雑収入	2,042	利子等
合 計	12,273,091	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	母校への助成
(2)部活動助成	300,000	全国大会出場の一部への激励金
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	
(4)義援金積み立て	200,000	
(4)予備費	10,073,091	
合 計	12,273,091	

項目間の流用をお認め願います。

平成27年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計予算書（特別会計）

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	2,197,881	
(2)積立金	500,000	母校後援会会計より
(3)雑収入	250	利子等
合 計	2,698,131	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)修繕費	0	
(2) 次期繰越金	2,698,131	
合 計	2,698,131	

平成27年度県立福島高校同窓会義援金会計報告

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)繰越金	389,384	
(2)積立金	200,000	同窓会後援会より
(3)雑収入	10,000	預金利子、寄付金等
合 計	599,384	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	摘要
(1)飛び梅接待関係	20,000	
(2)飛び梅管理費	70,000	
(3) 予備費	509,384	
合 計	599,384	

項目間の流用をお認め願います。

平成26年度 一般会計決算書 25年9月1日～26年8月31日

収入決算額・・・7,025,707円 支出決算額・・・4,557,769円 次年度へ繰越額・・・2,467,938円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	2,358,674	2,358,674	
(2)入会金	945,000	933,000	卒業生 (311名×3,000円)
(3)年会費	3,315,000	3,533,662	卒業生(311名×1,000円) 会員(1,250名)
(4)雑収入	100,000	200,371	寄付金(福中47大越勝忠様 ¥200,000)、利息等
(5)繰入金	0	0	
合 計	6,718,674	7,025,707	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
1.事業費	3,530,000	3,235,985	
(1)総会費	550,000	523,992	定期総会開催に関する費用
(2)会報費	2,600,000	2,443,443	梅苑会報印刷、郵送代、振替用紙
(3)母校後援費	280,000	268,550	卒業生証書ホルダー
(4)特別事業費	100,000	0	
2.運営費	740,000	534,284	
(1)会議費	200,000	197,554	H25年第2回、H26年第1回役員会
(2)事務諸費	10,000	1,590	振り込み手数料
(3)交際費	150,000	65,000	関東・みやぎ梅苑会参加費、局長名刺代
(4)慶弔費	100,000	0	
(5)通信費	80,000	31,520	往復葉書、切手
(6)旅 費	150,000	237,120	関東・みやぎ梅苑会出席旅費
(7)雑 費	50,000	1,500	局長名刺代
3.会員名簿管理費	840,000	787,500	平成25年度分会員名簿管理費
4.予備費	1,608,674	0	
合 計	6,718,674	4,557,769	

平成26年度 母校後援会費決算書 25年9月1日～26年8月31日

収入決算額・・・12,110,156円 支出決算額・・・1,739,107円 次年度へ繰越額・・・10,371,049円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	10,163,586	10,163,586	
(2)会費	1,760,000	1,905,000	卒業生 (311名×1,000円) 会員 (852名)
(3)雑収入	2,042	41,570	預金利子、部活動助成返金
合 計	11,925,628	12,110,156	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)後援会費	1,200,000	879,107	飛び梅関係(旅費、諸経費、式典等)
(2)部活動助成	300,000	160,000	全国大会出場助成等
(3)梅苑会館維持管理費	500,000	500,000	
(4)義援金積み立て	200,000	200,000	
(5)予備費	9,725,628	0	
合 計	11,925,628	1,739,107	

平成26年度福島高校同窓会梅苑会館維持管理会計決算書（特別会計）

収入決算額・・・2,197,881円 支出決算額・・・0円 次年度へ繰越額・・・2,197,881円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	1,697,614	1,697,614	
(2)積立金	500,000	500,000	26年度分
(3)雑収入	183	267	預金利息
合 計	2,197,797	2,197,881	

2.支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1) 修繕費	0	0	梅苑会館修繕費
合 計	0	0	

平成26年度県立福島高校同窓会義援金会計決算書

収入決算額・・・2,275,775円 支出決算額・・・1,886,391円 次年度へ繰越額・・・389,384円

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)繰越金	1,850,605	1,850,605	
(2)積立金	200,000	200,000	同窓会後援会より
(3)雑収入	100,000	225,170	預金利子、寄付金等
合 計	2,150,605	2,275,775	

1.収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
(1)飛び梅接待関係	1,800,000	1,850,751	旅費、接待費、諸経費、記念碑代等
(2)飛び梅管理費	35,000	35,640	全国大会出場助成等
(3) 予備費	315,605	0	
合 計	2,150,605	1,886,391	

関東梅苑会だより

爬虫類研究の原点は「怪獣」に

——肉食爬虫類研究に携わるきっかけは。

子供のころテレビでウルトラマンなど特撮番組がはやっていました。とくに円谷プロの怪獣モノが大好きだったので、恐竜や爬虫類へと自然に興味が移っていったのだと思います。それと2歳ごろ親類が買ってくれたカメラとか、近所のカナヘビを捕まえては飼育した幼いころの経験がきっかけかも知れません。

千石先生との出会い

——ここまでなら当時の子供の誰もが多少は経験することですね。

実は高校2年のころ「わくわく動物ランド」というテレビ番組を観て、爬虫類学者の千石正一先生に衝撃を受けたんです。先生は、それまでの学者にはない雰囲気で、なおかつあの長髪（笑）。なにしろ当時は恐竜の進化や絶滅について解説できる爬虫類研究者は先生しかいなかった。しかも子供のころから読んでいた爬虫類の記事のほとんどが先生の手によるものと知って、これは信頼できる方だと思いました。そうなるとうとう千石先生のことが気になってしまい、勉強そっちのけで爬虫類の書物にのめり込むようになりました。実際、高校3年でイグアナの飼育も始めたぐらいです。

——その後、上京して千石先生の門をたたくことになるわけですが。

1年浪人して東京の大学に入りました。何と言っても上京の目的が「弟子入り」ですから、入学してすぐに当時、環境庁の外郭団体だった日本野生生物研究センター（現在財団法人自然環境研究センター）に千石先生を訪ねて志願しました。「弟子入り」が許されてからは先生の「カバン持ち」と勉強会のお

でいた爬虫類の記事のほとんどが先生の手によるものと知って、これは信頼できる方だと思いました。そうなるとうとう千石先生のことが気になってしまい、勉強そっちのけで爬虫類の書物にのめり込むようになりました。実際、高校3年でイグアナの飼育も始めたぐらいです。

手伝い、それに野外調査の毎日。先生は、夕方4時に出勤して翌朝4時まで勉強するという夜型でしたので、先生が参加しない早朝からのフィールド調査を手伝わせてもらったり、何でもやりました。

先生からは調査方法の基本から手取り足取り厳しく教えていただきました。覚えが悪いので何度も何度もしかられました。先生は2012年2月にお亡くなりになりましたが、肉親以外では一番しかってくれた恩師です。そして私が一番しかられた弟子でした。

「恐竜博」を手がける

——現在のお仕事について。

大学4年間はあまり学校の勉強に身が入りませんでした。卒業後は就職しませんでした。現在は爬虫類研究所を設立して、大学や専門学校で非常勤講師も務めています。収入のほとんどは恐竜に関する仕事です。本や記事の執筆を中心に「恐竜博」の監修を手がけたり、博物館に展示する骨格標本の陳列、恐竜のCG映像の殺陣の振り付けもしています。鳴き声を骨格などから想像して、自分の声と他の動

物の声を合成して制作したりもするんですよ。

——恐竜や爬虫類の魅力とは。

好きになった原点は怪獣モノにあります。なにより動物の想像を超えた形に面白さがあると思います。理由もなく「嫌われたり、怖がられたり、迫害されたりする」ものに対する一種のシンパシーもあるのでしょうか。こうみえて、爬虫類は触ってみると温かいんですよ。変温動物ということで冷たいイメージがありますが、自分で体温を上げ下げできないだけなのです。知能も持っていて、イグアナぐらいになると人間の幼児ぐらいはあって、すねたり、はしゃいだり、感情も豊かなんです。千石先生はかねて「恐竜は現代につながる学問だから良い」



関東梅苑会 定期総会・合同同期会 スペシャルゲスト

肉食爬虫類研究所 代表
富田 京一さん(高校37回卒)

平成27年度 定期総会・合同同期会

- 日時：5月22日(金)
【受付】18時～ 【開宴】18時半～
- 会場：東京グリーンパレス
・千代田区二番町2 TEL.03-5210-4600
・麹町駅徒歩1分、半蔵門駅徒歩5分

スペシャルゲスト

肉食爬虫類研究所・富田京一さん(高37回卒)

とおっしゃっていました。恐竜や爬虫類を研究することは地球環境と生物の調和を考える「未来につながる学問」だと信じています。

福高では生徒会長

——爬虫類以外ではどんな高校時代を送っていましたか。

1983年度の後期の生徒会長を務めました。立候補にあたっては梅苑祭の充実や部活動の予算アップを公約にして当選しました。ほかには怪獣の着ぐるみやミニチュアによる映画を撮影したり、落語研究会の部長も務めて梅苑祭では寄席を開いたりしました。いずれにしても千石先生に魅入られてからは、学校の図書館や県立図書館に入り浸って生物関連の書物を片っ端からコピーして、授業中もそのコピーを教科書で隠して読んでいました。

福島は「恐竜の宝庫」

——ふるさと福島への思いをお願いします。

福島は「恐竜の宝庫」です。フタバサウルスという大型爬虫類が日本の本土で初めて発見された浜通りは、中生代の海生生物の化石が世界的にも集中して発見される地域で、かつ陸上の化石も豊富です。同じ恐竜で有

名な福井県で見つかる化石は陸上か淡水の生物化石がほとんどです。

それと広大な山林や豊かな水に恵まれた自然環境をもっと誇りに思うべきだと思います。「アクアマリンふくしま」のように他の地域に誇れる施設も最近整備されていますが、モリアオガエルなど福島の自然環境と生態系の調和を子供たちに理解してもらえそうな施設づくりが求められています。これは震災からの復興という視点から大切だと思います。そんなお手伝いできたらいいですね。

Profile

とみた・きょういち 1966年生まれ。福島市立清明小（当時）、福島大附属中を経て、1985年福島高校卒。1990年帝京大学文学部卒。大学在学中に爬虫類学者の千石正一氏に師事し、さまざまなフィールドワークを経験しながら動物に関する執筆活動をスタート。小学館の雑誌『小学一年生』で「ドクター・トミー」としてデビュー。2002年に「肉食爬虫類研究所」を設立。「マングローブ生態系における爬虫類の役割」が専門で国内外の調査活動なども精力的に手がける。『日本のカメ・トカゲ・ヘビ』『すべてわかる恐竜大事典』など動物や恐竜に関する著作は多数。テレビ・ラジオなどメディアへの出演も多く、幕張メッセで開催された『世界最大の恐竜博 2002』に参加。以降、多くの恐竜博をはじめ、全国の博物館の恐竜展示に協力している。現在55種類・約100体の爬虫類と両生類、原始哺乳類と同居。近著に『恐竜レスキュー ジュラ KIDS!』（朝日新聞出版）発刊予定。

関東梅苑会ゴルフ愛好会

一緒にプレーしてみませんか！

ゴルフ愛好会について

関東梅苑会ゴルフ愛好会は、毎年春と秋の2回、和やかにゴルフコンペとコンペ後の懇親会を行っており、会員は現在約60名です。会長は高3回の山口隆さん、事務は丸山秀夫さん（高9回）・穴戸金二郎さん（高14回）・戸松哲男さん（高19回）が担当しています。大会は40回以上になりますが、概して会員のスコアは高くありませんので、どなたも安心して参加してくださいね！（笑）

コンペはあの名門

日高カントリークラブで！

コンペ会場は埼玉県の日高カントリークラブ。このゴルフ場は、今でも会員の同伴が紹介が必要で、一見さんには敷居が高い、いわゆる「名門」コース。でも高9回の村松邦一さんが支配人をされていたことで、いろいろな配慮をいただいています。

「東」「西」「南」の3コース27ホールはいずれもよく整備されて美しく、戦略的なホールが所々に。普段は100前後のスコアの方でもうっかり油断すると苦戦すると言われる、一度はプレーしてみたい魅力的なゴルフ場ではないでしょうか！

同期の仲間と

和気あいあいでプレーを！

コンペ参加者は、最長老の中39回佐藤庄市郎先輩を筆頭に常連の方も数名おりますが、メンバーはその都度異なります。毎回、およそ5〜7組で行われ、同年代や同期生が同じ組で回れるように配慮していますので、初めて参加する方も楽しくプレーできると思います。もし、同期生で時々ゴルフをしているなら、そのメンバーでこの名門コースを楽しんでみませんか！

懇親会では成績発表や上位者への表彰と賞品授与等も行われます。



お問合せ

丸山秀夫さん（高9回）
TEL 0484-76-4120

平成27年度のゴルフ大会

春：4月2日
秋：10月下旬～11月上旬

参加費

会費：4千円
※プレー代や飲食代等は各自で精算です。プレー代などについてはお気軽に事務局の丸山さんにお問合せください！



—長編時代小説『春のみなも』を書いたきっかけは。

福島市を舞台にした物語をいつか書いてみたいという気持ちはずっとありました。会津若松市などと比べると「何も無い町」という思いが払拭できずにいましたが、本当にそうなのかと調べていくと、福島・信達地方は凄い歴史を持っていることが判ってきました。しかし旧市内は明治14年の火事で江戸期の建造物はほとんど消失し、直後の区画整理や道路拡張で景観は全く変わってしまいました。



Profile

さとう・しょういち 1950年生まれ。福島大附属小・中を経て、1969年福島高卒、1974年明治大商卒。

1984年株式会社ノーク設立。広告・デザイン戦略、イベント企画設営などに携わる。2011年春吉省吾（はるよし・しょうご）のペンネームで、長編時代小説4部作の第1作『冬の櫻』（上・下）、2014年第2作『春のみなも 幕末小藩物語』（上・下）を上梓。今夏、3作『夏の熾火（おきび）』刊行予定。

動する幕末の物語を伝えることが、私自身のためにも、次世代の方々にも必要と考えました。

—小説の執筆にあたっては。

福島市の美しい四季折々を舞台に、人間関係の妙と登場人物一人一人の息づかいを感じてもらえる小説を書こうと思いました。それがこの町で育った私の役割だと信じて、『福島市史』や近郊の市町村史を集め、10年ほど前から構想を練り始めました。時代は幕末、舞台は福島藩と

FUKUSHIMAの未来に生きるすべての人に希望を 幕末の福島を描いた小説『春のみなも』を上梓した 佐藤 祥二さん（高校21回卒）

—幕末の福島について。

全国有数の生糸市場を背景に、福島県下には3つの飛脚問屋の支店があり、江戸や京大阪の情報はいち早く城下の商人達に伝わりました。財政に窮した福島藩に代わって商人達が城下を管理しました。信達一揆の打ち毀しや、東征軍の進攻に武士達が米澤に逃避した後も、福島の商人達は仙台藩の残党から城下を守ったのです。残念ながら、幕末から明治期の彼等の活躍はほとんど伝承されていません。『春

のみなも』は忘れ去られた「僕物達」への鎮魂歌でもあります。

—執筆時期は「東日本大震災」と重なっています。

本格的に執筆を始めてすぐ、「東日本大震災」が起こりました。その時既に小説の筋書きは固まっていたのですが、熟慮の末、全体構成を再考しました。震災や原発事故のいわれなき誹謗中傷、過剰なまでの反応を一切捨象し、「福島」の描かれていた立場を小説に反映するためです。日本だけでなく、視座を大きく「世界」に拡げ「FUKUS

HIMA」を正しく知ってもらうために、時代小説『春のみなも』にその意志を込めて、世に問うことにしました。

—武芸に秀でた強い女性を主人公としたわけは。

絶望の淵から「鎮魂と祈り」を胸に「希望の意志」を実現するためには、深い教養を持ち、剣や柔術に優れ、胆力を持った魅力的な女性が必要でした。単なる時代小説ではない未来につながる物語ですから、母性の強

さと優しさを持つ女性が主人公でなければなりません。「初」はそういう理想の女性です。

作品のリアリティを高めるためと自らの健康を兼ねて、20年ほど前から弓道と居合を始めました。現在は渋谷区弓道連盟の役員として、指導もしています。前作の『冬の櫻』では弓道、『春のみなも』では居合の経験がそれぞれの作品に生きています。

—高校時代の思い出は。

卒業は安田講堂事件で東大入試が中止になった年で、前年は福高の卒業式が紛糾した時代で

—福島に寄せる思いをお願いします。

原発事故で負のイメージが焼き付いた「福島」を、希望ある誇り高き「FUKUSHIMA」に変えるために、福島の伝統と文化を見つめ直し、我々は世界に情報を発信し、未来につながる事が大切です。僥越ですが、私の小説がその役割を少しでも担うことができればいいと考えています。これからも執筆を通して故郷と熱く関わっていきたいと思います。



『春のみなも』の価格は上・下巻とも税込2160円。書籍購入は「ノーク出版」ホームページまで。

みやぎ梅苑会だより

広げよう！親睦と交流の輪を みやぎ梅苑会総会・懇親会開催

平成26年度みやぎ梅苑会総会が9月11日仙台市青葉区のハーネル仙台にて開催された。生憎の豪雨に見舞われたが会員約60名が出席した。

総会は歌川事務局長（高17回）の司会のもと、物故会員に黙祷を捧げた後、鈴木征夫会長

（高12回）が「母校はいつまでたっても懐かしうありがたい存在、同窓会を盛り上げて行きたい」と挨拶し議長席に着いた。

総会は議案として①平成25年度事業報告・会計報告及び監査報告、②平成26年度事業計画案・予算案、が審議され何れも満場一致で承認された。

恒例の懇親会は母



校より田代公啓校長、同窓会本部より川崎眞二会長・今関達也事務局長・西山伸一事務局次長、関根英樹理事、後援会より阿久津順二会長、父母と教師の会より黒森陽一会長、関東梅苑会より佐々木政彦・戸松哲男両副会長を来賓にお迎えし、事務局の菅野剛広氏（高34回）の司会で進められた。

挨拶に立たれた川崎眞二会長から「太

宰府天満宮の飛び梅移植の経緯、在学生の活動状況や同窓会への協力」について、田代公啓校長からは「新校舎での授業開始、SSH生徒研究会発表会での最高賞の受賞、陸上のアジア大会出場、囲碁・将棋・新聞部の全国大会出場、梅苑祭の活況」など生徒の活発な活動の紹介を兼ねたご挨拶があり、各来賓の方々からのご挨拶や出席者の方々のショートスピーチ、また、みやぎ梅苑会ホームページ立ち上げの紹介等を交え、同じ学び舎を巣立った同窓生が互いにテーブル間を大きく移動しながら、世代・職域を超え和気藹々と賑やかに交流をしました。

合唱部OBの西村晃一（高28回）駒場悟（高32回）両氏のリードにより出席者全員で校歌を高らかに歌い上げ盛會裡に終了した。

会場の熱気が天に届いたか、会員が帰路に着く頃には豪雨はすっかり上がっていた。

見事なハーモニで校歌を披露 第7回「土井晩翠先生が作詞した校歌を いっしょに歌いましょうの会」参加

同会は「荒城の月」の作曲で知られる仙台市出身の詩人土井晩翠氏の足跡・功績を知り、後世に伝え明るい地域社会の創造に寄与することを目的に、没後50年にあたる平成14年より隔年毎に開催されています。

第7回の今年も「晩翠忌」にあたる10月19日(日)に氏の出身校である仙台市立立町小学校にて行われ、地元の小中学校在校生から高齢の卒業生達まで、愛知県や高知県からの参加も含め16

団体参加のもと開催されました。

みやぎ梅苑会は平成15年の第2回より有志が集い継続して参加しており、今回も鈴木征夫会長（高12回）初め16人が参加しました。今回は福島から1名駆けつけて頂いたほか東北大学混声合唱団のメンバーでもある若手同窓生3名が初めて加わり学校紹介のあと校歌1・2・5番を披露、会場一杯に素晴らしいハーモニを響かせ満場の拍手を浴びました。

column

中国・大連にて同期会を開催

中国・大連にて日本語教師として赴任している橋本俊一さん（高校21回）から同期会の報告が入りました。

先月、高校21回の有志7名が奥様同伴で大連を訪れ現地で開催したそうです。そして、この同期会の様子が大連の情報誌「LOOK」11月号に写真付で掲載されました。





福島高等学校長
田代 公啓

煌めく福高生

同窓会員の皆様には、日頃より母校に対しまして物心両面に亘る絶大なるご支援とご協力を賜っておりますことに衷心より感謝申し上げます。

皆様から大変ご心配をいただいております。新校舎第三・四棟の建設工事ですが、当初の予定より五か月ほど遅れて八月二十日に竣工いたしました。基礎杭が硬い転石層に阻まれる難工事を強いられるなど大変厳しい状況下で工事が進められましたが、施工業者である菅野建設株式会社の絶大なるご尽力により、白を基調とした優美な校舎が完成しました。教室は旧校舎に比べ三〇％程広く、壁や床、廊下の腰板には杉などの県産木材がふんだんに使われ、木の香漂う温かみのあるものとなっております。生徒たちは、この新たに手にした快適な環境の下、お互いに切磋琢磨しながら自由闊達な校風をさらに高揚させていくものと確信しております。

大震災以降、逆境をバネに強く逞しく成長している生徒たちの文武両面に亘る活躍は、今年度も大変めざましいものがありました。運動部では、陸上部男子二名、アーチェリー部男女各一名が南関東で開催されたインターハイに出場しました。特に陸上部の山下潤君（二年）は200mで三位、南京で開催されたユースオリンピック二〇一四に同種目のアジア代表として出場し、六位入賞という快挙を成し遂げ、二〇二〇年東京五輪での活躍が期待される「ダイヤモンドアスリート」――十一名の一人に指定されました。さらに陸上部男子二名と剣道部女子一名が長崎がんならば国体に出場しました。文化部では、小山田健太君（三年）を中心とするスパーサイエンス（SS）部化学班が横浜で開催されたSSH（スパーサイエンスハイスクール）生徒研究発表会において「ベンザインの合成

を目指して」と題する発表を行い、高校生の域を超えた高度な研究であるとの評価を受けて文部科学大臣表彰を受賞し、高校化学グランドコンテストでも文部科学大臣賞を受けました。瀬川和磨君（二年）を中心とする生物班が日本魚類学会の高校生研究発表の部で「好適環境水における硬骨魚類のセイル学的変化の解明」と題する発表を行い、最優秀研究賞を受賞しました。また、小山田君は化学グランプリ二〇一四で金賞を受賞し、瀬川君は日本生物学オリンピック二〇一四で銅賞となり、日本代表候補となっています。さらに、「梅薫七賢人チーム」が科学の甲子園県大会で優勝し、念願の全国大会に出場します。茨城県で開催された全国高等学校総合文化祭には、囲碁部門（個人）、将棋部門（団体）、新聞部門に出場し、次年度滋賀県で開催される大会には、SS部化学班、梅章應援団チアリーダー部が出場

することが既に決まっています。学習面においては、全国的にも稀有な全校生を対象に取り組んできたSSH事業が八年目を迎え、基礎的教養を身に付ける契機として進路指導部が展開しているリベラルゼミと両輪を為し、本校教育の中核としてしっかりと定着しております。県内は勿論のこと国内外の高校、大学、研究機関等との連携体制が強化され、最先端の研究者をはじめとする様々な交流等により、生徒たちの成長は著しく、大学での学びを含め将来を見据え、主体的かつ意欲的に学習に取り組む、確実に「確かな学力」を身に付けております。

私も教職員は、生徒たちに負けない教職員集団となるべく日々研鑽に励み、未来を担う「世のため立派なひと」とする生徒たちの成長をしっかりと支えてまいります。と考えておりますので、会員の皆様には、母校に対するより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

部活動成績

【陸上部】山下潤（2年）

- 平成26年度全国インターハイ（山梨）200m【3位】
- 第2回ユースオリンピック
アジア地区予選（バンコク）200m【1位】
- 第2回ユースオリンピック（南京）200m【6位】
- 第8回ユース選手権大会（名古屋）100m【2位】
- 平成26年度JOCオリンピック
有望選手認定（平成26年4月）
- 2020東京オリンピック
「ダイヤモンドアスリート」認定
（平成27年1月）



山下選手（写真左から2番目）

【SSH】化学班ベンザイングループ

- 全国生徒研究発表会
文部科学大臣賞（全国1位）
- 高校化学グランドコンテスト
文部科学大臣賞（全国1位）



進学展望

進路希望の動向 ～合格の花咲かせ、世の為たれ！～

平成二十七年三月の卒業生は、東日本大震災の影響により、入学時から仮設校舎で学校生活を送り、昨年、待望の新校舎完成を待って、八月二十一日に教室移動するまでは決して恵まれた学習環境であつたとは言えない。そのような困難な中でも、例年にも増して力を蓄え、新校舎への移動後も、一層進路実現への意欲を燃やし学習に取り組んだ。

平成二十七年年度の大学入試センター試験は、新学習要領への移行に伴い、今年度から数学と理科が新課程に沿った出題に切り替わり、旧課程履修者に対する経過措置として旧課程科目も出題されたため、かつてない複雑な実施方法となった。十八歳人口の減少もあり、志願者数、受験者数ともに減少した前年から大きな変化は見られなかった。全国の科目別平均点では、昨年、過去最低だった国語が大幅に上昇。地歴の中では地理Bが、理科では生物が目立ってダウンし、数学Ⅱ・Bの中間平均点の時点で四十七点と大変低いものとなった。また、生物と物理Ⅰの平均点差が二十点以上開いたため、

十七年ぶりに得点調整が実施された。

本校における国公立大の志願動向だが、旧帝大を中心とした難関大学への志向がより高まるともに、地域拠点大学への出願もほぼ例年通りだった。

具体的な出願数については、下記の「入試出願状況」に示す。旧帝大をはじめとする難関大学への出願数は昨年よりも三十程度増加し、特に東北大では前後期併せて九十五の出願と昨年より二十六の増加となった。(前期は六十六名で四十六名だった昨年より二十名の増)福島大学は前期で二十三名の出願で昨年より三名減。福島県立医科大学の医学部は前期で十七名と昨年より六名増えた。

これまで同様、福高の精神である社会に貢献する人材としてそれぞれの道で活躍していくための第一歩として、全国津々浦々に美しい梅花を咲かせてもらいたい。そのために、国公立受験では生徒たちが後期日程まで粘り強く受験と向き合い、合格を勝ち取ることができるよう生徒を支えていきたい。

入試出願状況 (現役の延べ数・推薦、AOは含まない) 2月7日現在

項	大学名	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年
国公立大	北海道大	15	13	12	32
	岩手大	6	3	10	8
	東北大	95	69	67	69
	山形大	6	20	17	15
	福島大	63	72	48	66
	茨城大	12	13	5	10
	筑波大	12	22	32	15
	宇都宮大	5	10	14	2
	埼玉大	9	18	20	24
	千葉大	18	36	36	34
	東京大	18	16	22	5
	東京外語大	0	5	2	6
	東京工業大	6	4	4	6
	一橋大	6	7	8	2
	横浜国立大	6	9	8	13
	新潟大	34	32	24	28
	京都大	5	8	10	3
	その他	81	53	68	63
私立大	県立医科大	49	56	48	66
	県立会津大	1	0	3	1
	高崎経済大	9	8	3	2
	その他	33	19	31	36
	東北学院大	3	12	13	20
	青山学院大	23	17	31	34
	慶應義塾大	30	25	20	22
	上智大	2	5	5	7
	中央大	64	42	56	61
	東京理科大	24	21	20	31
	日本大	18	18	24	20
国立大学合計	法政大	48	39	60	48
	明治大	63	74	93	118
	立教大	50	37	61	37
	早稲田大	69	64	67	79
	その他	253	253	262	282
	公立大学合計	397	410	407	401
	私立大学合計	92	83	85	105
	私立大学合計	647	607	712	759
	総計	1,136	1,100	1,204	1,265

大学合格者数 (過年度卒を含む)

項		平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
国公立大	北海道大	6	9	5	4
	岩手大	4	3	8	0
	東北大	37	26	25	41
	山形大	10	10	9	11
	福島大	21	19	24	33
	茨城大	2	3	2	1
	筑波大	9	7	6	10
	宇都宮大	4	7	2	3
	埼玉大	6	6	12	11
	千葉大	15	14	15	13
	東京大	6	3	0	6
	東京外語大	1	0	2	1
	東京工業大	5	2	1	6
	一橋大	5	3	1	2
	横浜国立大	6	4	6	7
	新潟大	15	9	14	8
	京都大	4	1	2	5
	その他	22	21	17	16
私立大	県立医科大	24	17	27	15
	高崎経済大	4	1	1	0
	その他	5	16	15	9
	小計	211	181	194	202
	慶應義塾大	15	10	6	13
	早稲田大	27	28	22	44
	中央大	41	27	38	34
	明治大	39	48	55	44
	法政大	41	19	18	19
	立教大	17	40	19	22
	日本大	13	17	8	13
合格者数	東北学院大	13	5	20	7
	同志社大	7	2	2	6
	その他	239	251	235	134
	小計	452	447	423	336
	準大学	2	1	1	2
	短期大学	3	1	2	3
	各種学校	0	0	0	1
	合計	668	630	620	544
	就職	0	1	0	2

寄贈図書紹介（平成26年1月～12月）

寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）	寄贈年月日	書名	著者名	寄贈者（敬称略）
26.05.30	コンサルティング科医者図鑑	青山邦彦・絵	日経BP コンサルティング	26.07.31	ゼロの迎撃	安生正	赤沼健一 （福高職員）
26.05.30	総合商社図鑑	青山邦彦・絵	日経BP コンサルティング	26.07.31	海賊とよばれた男 上	百田尚樹	赤沼健一 （福高職員）
26.05.30	100年前からの警告 福島原発事故と朝河貢一	武田徹、他	武田徹	26.07.31	海賊とよばれた男 下	百田尚樹	赤沼健一 （福高職員）
26.05.30	転生の秘密	ジナ・サーミナラ	日本エドガー・ ケイシーセンター	26.07.31	インフェルノ 上	ダン・ブラウン	赤沼健一 （福高職員）
26.05.30	サイエンス	東京理科大学	東京理科大学	26.07.31	インフェルノ 下	ダン・ブラウン	赤沼健一 （福高職員）
26.05.30	万葉集みじかものがたり 8	中村 博	中村博	26.07.31	味わってみたい日本の料亭・料理店		全国料理業生衛生 同業組合
26.05.30	万葉集みじかものがたり 6	中村 博	中村博	26.07.31	ピプリオバトルをしよう	粕谷亮美	福島県司書研修会
26.05.30	ふくしまの芸術文化五十年	福島県芸術文化団体	福島県芸術文化団体	26.08.22	偽善入門	小池龍之介	図書部選書実習
26.05.30	150人のオピニオン V	海洋政策研究財団	海洋政策研究財団	26.08.22	アイデアの接着剤	水野学	図書部選書実習
26.05.30	151人のオピニオン VI	海洋政策研究財団	海洋政策研究財団	26.08.22	さよなら妖精	米澤穂信	図書部選書実習
26.05.30	海洋白書 2014	海洋政策研究財団	海洋政策研究財団	26.08.22	偉い羊たちの祝宴	米澤穂信	図書部選書実習
26.05.30	資本制経済の基本法則	柳田洋吉	柳田洋吉	26.08.22	文学とは何か	加藤周一	図書部選書実習
26.05.30	科学技術は日本を救うのか	北澤宏一	北澤宏一	26.08.22	空想科学読本ミドリ	柳田理科男	図書部選書実習
26.06.30	官房長官	星浩	星浩 （福高26回卒）	26.08.22	ジョン・マン	山本一力	図書部選書実習
26.06.30	これからを生き抜くために大学時代にすべきこと	許光俊	永山徹	26.08.22	恋文の技術	森見登美彦	図書部選書実習
26.06.30	内部被曝の脅威	肥田舜太郎	永山徹	26.09.30	不思議な電話	松田武信	松田武信
26.06.30	常識破りの日本語文章術	松永暢文	永山徹	26.09.30	経営の嘘	佐藤祥一	佐藤祥一 （福高21回卒）
26.06.30	和解する脳	池谷裕二、 鈴木仁志	永山徹	26.09.30	春のみなも 上	春吉省吾	佐藤祥一 （福高21回卒）
26.06.30	菅原道真	三田誠広	永山徹	26.09.30	春のみなも 下	春吉省吾	佐藤祥一 （福高21回卒）
26.06.30	小倉昌男 経営学	小倉昌男	永山徹	26.10.31	知ろうとすること。	早野龍五、糸井重 里	西沢書店
26.06.30	国をつくるという仕事	西水美恵子	永山徹	26.10.31	決めごとのきまりゴト	浅利圭一郎	日比谷パーク法律 事務所
26.06.30	東アジアのアイデンティティ	李相哲	永山徹	26.11.28	源氏物語 1	中村博	中村博
26.06.30	挑戦 巨大外資 上	高杉良	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	土屋文明記念 文学館
26.06.30	挑戦 巨大外資 下	高杉良	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	ロンドンはやめられない	高月園子	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	田辺聖子の小倉百人一首	田辺聖子	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	狼は帰らずアルビニスト・森田勝の生と死	佐瀬稔	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	行かずに死ねるか！	石田ゆうすけ	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	5万4千円でアジア大横断	下川裕治	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	やった。	坂本達	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	阿部一族・舞姫	森鷗外	永山徹	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	南極観測隊のしごと	国立極地研究所	国立極地研究所	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	南極海に生きる動物プランクトン	福地光男、他	国立極地研究所	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	高校生が三田サハリン・樺太	菊地明範	中央大学	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	郡山物語	菊池晋太郎、他	ヨークベニマル 文化教育事業財団	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	保障行政の法理論	板垣勝彦	板垣勝彦 （高校52回卒）	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	細道の情景	溝渕冬扇	溝渕冬扇	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	万葉集みじかものがたり 5	中村博	中村博	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	万葉集みじかものがたり 7	中村博	中村博	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	万葉集みじかものがたり 9	中村博	中村博	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	万葉集みじかものがたり 10	中村博	中村博	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.06.30	伝えたい 福島の3.11	あけぼの会	福島県退職女性 教職員	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.07.31	スイモ、アマイモ。司法書士花村大輔のプライド	月路よなご・画	日本司法書士会 連合会	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.07.31	文豪ナビ 夏目漱石	新潮文庫	新潮社	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.07.31	いちから聞きたい放射線のほんとう	菊池誠、小峰公子	菊池誠	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵
26.07.31	生存者ゼロ	安生正	赤沼健一 （福高職員）	26.11.28	響き合う うたと人形	島内景二 他	高橋踵

（その他多数の寄贈圖書をいただきました）

福島県立福島高等学校同窓会 役員および事務局員

平成26年度 同窓会役員

会長	川崎 真二	高11回
副会長	鈴木 征夫	高12回
副会長	内池 浩	高14回
副会長	二階堂 晋一	高16回
副会長	久米 允彦	高16回
副会長	渡邊 健寿	高17回
副会長	片平 憲市	高19回
常任理事	佐藤 紀男	高11回
常任理事	齋藤 登	高12回
常任理事	議員 健郎	高13回
常任理事	林 恭良	高14回
常任理事	永倉 禮司	高15回
常任理事	佐藤 守	高16回
常任理事	富田 建一郎	高16回
常任理事	長谷川 好美	高17回
常任理事	歌川 和夫	高17回
常任理事	熊坂 英二	高18回
常任理事	佐久間 政文	高19回
常任理事	本多 修二	高20回

監事	鈴木 芳喜	高19回
監事	松野 孝司	高20回
理事	角田 征雄	高12回
理事	三瓶 昌久	高13回
理事	久家 孝夫	高13回
理事	上竹 豊	高14回
理事	岡崎 勇三郎	高15回
理事	勢島 昇	高18回
理事	本多 純一郎	高19回
理事	花井 宣明	高20回
理事	網代 智盟	高21回
理事	佐藤 信雄	高21回
理事	尾形 克彦	高22回
理事	芳賀 裕	高22回
理事	黒澤 信雄	高22回
理事	大野 順道	高22回
理事	木村 豊	高22回
理事	菅野 日出喜	高23回
理事	加藤 典義	高23回

理事	村上 正文	高23回
理事	江口 淳	高23回
理事	高橋 雅行	高24回
理事	渋谷 修一	高24回
理事	渡邊 誠	高25回
理事	渡辺 久	高25回
理事	後藤 忠久	高26回
理事	土屋 牧雄	高26回
理事	阿部 芳和	高27回
理事	片平 淳	高28回
理事	五十嵐 俊道	高28回
理事	島田 久	高31回
理事	八子 直樹	高31回
理事	大和田 利明	高31回
理事	篠木 雄司	高33回
理事	吉成 健二	高33回
理事	関根 英樹	高33回
理事	阿久津 順二	高37回

平成26年度 同窓会事務局員

田中 訓樹	高22回
佐藤 洋光	高23回
須藤 鑑	高26回
朽木 隆	高27回
大橋 良一	高27回
今関 達也	高28回
国分 聡	高33回
西山 伸一	高35回
佐藤 富浩	高36回
丹治 崇	高36回
渡邊 兼綱	高36回
小林 寿宣	高38回
大河内 孝志	高38回
本多 信弥	高40回
田中 幹大	高46回
田中 成和	高48回
松井 暢彦	高53回
笹原 麻里菜	高60回
石井 純花	高62回

同窓会事務局（福島高校内）

〒960-8002 福島市森合町5-72
TEL.024-535-2391 FAX.024-535-2392

みやぎ梅苑会事務局

〒981-0923 仙台市青葉区東勝山二丁目22-6
TEL.022-275-2887（落合 敏伸）

関東梅苑会事務局

〒150-0043 渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号信陵会館内
TEL.03-3462-1225 FAX.03-5489-1358（今野 金頭）
<http://www.kantobaienkai.ne.jp/index.html>